

JIM-NET便り

◎ 哲学のある

今年もチョコ募金の季節がやってきました。「哲学のあるチョコレート」とぼくは勝手に言っています。

職場で義理チョコを贈るなら、あるいは家族へのちょっとした心遣いで贈るなら、あの有名なゴディバではなく、哲学のあるチョコレートがよいと思っています（ゴディバさん、ゴメンナサイ）。

500円募金をしてくれれば、このチョコレートがついてきます。イラク戦争で傷ついた子どもたちを助けることができます。福島の子どもたちを助けることができます。シリアからヨルダンやイラクに難民として脱出してきた子どもや妊婦さんたちを助けることができます。チョコレートは六花亭。北海道でしかなかなか手に入らない有名でおいしくて安全なチョコレート。六花亭のご厚意で原価で分けてもらっています。草加にある小さな製缶工場の人たちの3ヶ月分ほどのお仕事にもなります。「はなみずき」という共同作業所の障害者たちのお仕事にもなります。みんなをほんのちょっとだけ助けることができる。どこでも買えないイラクの子どもたちが命を愛しんで書いた絵がプ

◎ チョコレート ◎

JIM-NET代表理事 鎌田實

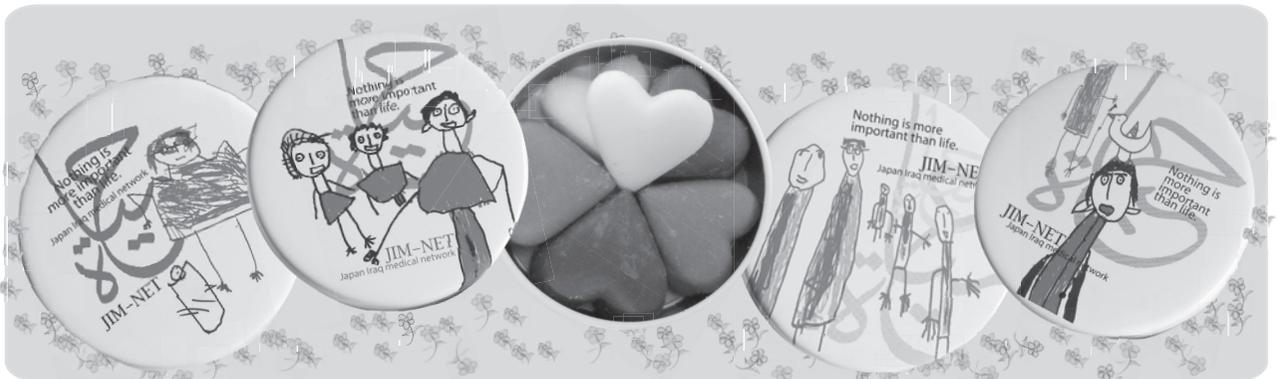
リントされている可愛くて素敵な缶に入ったハート型の3種類の味が楽しめるチョコレートです。

チョコレートを送る人の哲学を感じさせます。外国のブランドのチョコレートを贈ればよいと思うのはとてもダサいことです。

ぜひ、お友だちにも口コミで伝えてください。TwitterやFace Bookなどで、どんどん、次から次へ、広めていただけるとありがたいです。

16万個のチョコ募金はとても大変です。たくさんの人の温かいお力添えがなければ広がりません。今年のデザインもとてもかわいいです。赤ちゃんの命、家族の命、友だちの命、治療によって助かる命。渦を巻きながら絆ぐるぐる。東北を助けたり、シリア難民の妊婦さんや子どもやイラクの病気の子どもたちを助ける。絆がぐるぐる回って、世界が理解し合い、助け合い、支えあい、絆が広まっていくことを願っているチョコレートです。

ぜひ、みなさまの応援、よろしく願い致します。



NEWS

【チョコ募金2014特集】

哲学のあるチョコレート.....P.1
 今年のテーマは「絆ぐるぐる」です。.....P.2~P.3上
 今年のチョコ募金の準備も順調に進んでおります。...P.3下

【シリア支援報告】

絆につながる、ぐるぐると。.....P.4上

【福島支援報告】

富成地区での活動、第一歩.....P.4下

今年のテーマは「絆ぐるぐる」です。

JIM-NET 事務局長 佐藤真紀

JIM-NETのチョコは、「いのちをつなぐチョコレート」です。イラクの小児がんの子どもたちのほかならぬ命から描き出された絵。描いた後に亡くなってしまった子どもたちも何人かいます。皆さんがチョコを食べることで、子どもたちの命を感じ、イラクの子どもたちには、募金で苦い薬が届き、いのちがつながっていきました。

そして、津波と福島原発事故が起きたときに、本当に僕たちは、ショックを受けました。折れそうな心を支えてくれたものがまさに「絆」だったのかもしれない。JIM-NETのチョコには、イラクの子どもたちからの温かいメッセージが込められています。震災の時には、ともかくみんな元気になってほしい。そんなデザインをイラクの少女ハウラちゃんと一緒に一生懸命

考えました。チョコ募金をしてくださる方の絆もぐるぐるとつながっていきました。

震災から3年近くたつ日本ですが、福島をはじめ、放射能が絆を切っていろいろなコミュニティでの閉塞感を感じます。オリンピックが東京に決まっても、素直に喜べないのは私だけでしょうか？そして、今シリアの内戦は泥沼化しています。イラクも連動して治安は悪化を続け、年間のテロの犠牲者は、5000人を超えてしまいました。どうすればいいんでしょう。折れそうな世界の心を支えてくれるのは「絆」なのかもしれません。

この絆を世界につなげたい。もっと絆をぐるぐるさせよう。そしたら、世界はもっと平和になるでしょう。そんな思いを込めて作ったのが今年のチョコレートです。

【缶のデザインについて】

●いのち

チョコの缶にデザインされているのがアラビア語の「いのち」という文字です。そして、いのちを感じさせる強いタッチの絵は、白血病のファートマちゃん(現在9歳)が、6歳くらいの時に描いた絵。5年前に白血病になりました。2年前に治療が完了し、現在は検査のためにバグダッドの病院に通っています。

彼女が暮らすのはバグダッドから30kmほど南下したマハムディヤという町。2003年、町の商店街のど真ん中に、劣化ウラン弾で破壊された戦車が放置されていて、フォトジャーナリストの森住卓さんや豊田直巳さんが放射能汚染していることを確認し、レポートしたので有名になりました。また2004年5月には、ジャーナリストの橋田信一さんが甥の小川功太郎さんと取材中に襲撃を受け殺害されたのもマハムディヤでした。私は橋田さんらと同じホテルに泊まっていたのですが、戦場ジャーナリストたちがたむろしていて、毎晩みんなでこんなことがあったとか情報交換をしていました。「(支援は)うまくやらなきゃ損ですよ。」というアドバイスを受けています。

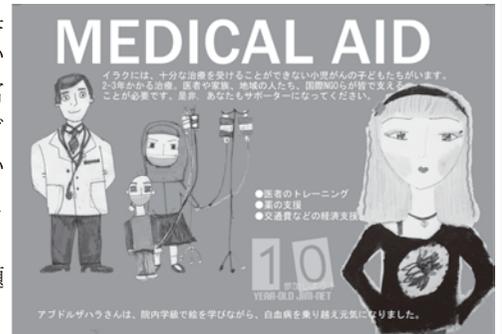
さて、彼女が白血病だと分かった時は、イラク内戦が激しくなり宗派対立が激化。国内避難民としてマハムディヤ郊外に避難しました。当初は泥壁で作った粗末な家に住んでいましたが、やがてここに土地を買い家を建てました。この地区は開発地区になったため、最近はやっとした建設ラッシュで、お父さんは建築の仕事を手伝い生計を立てています。

ファートマちゃんは現在元気に学校に通っています。JIM-NETは、彼女がきちんと病院に通えるように交通費の支援を続けています。

【カードの解説】

●小児がんの子どもたち

がんの子どもたちの命と向き合った支援というのは、JIM-NETの原点でもあります。サブリーン・アブドルザハラちゃんは漫画の様な絵をかくのが得意。つらい治療もユーモラスなイラストに仕上げます。無事に治療を終えた彼女が暮らすのはイラク南部のバスラ。最近では石油ビジネスで外国人も滞在するようになったバスラですが、治安も安定せず貧困地区では下水があふれて悪臭を放っています。貧富の格差をどう埋めていくのか、これからのイラクの課題です。



治療の様子を絵にしたチョコカード (内側)

●赤ちゃんが無事に生まれてほしい

バグダッドのスハッドちゃんは、イラク戦争が始まった時10歳でした。それから10年の歳月を経てすっかり成長したスハッドちゃんは、オーボエを吹きます。「私たちは戦争という大変な環境の中で育ちました。それでもあきらめませんでしと日本の被災地に伝えたい」といって、2011年に



赤ちゃんのチョコカード (表)

チャリティコンサートをバグダッドで開催し、2013年の夏には来日しました。

JIM-NETは、シリア難民の妊産婦支援をしています。出産の支援は、10年後、20年後を想定して、赤ちゃんが成長してほしいという願いを込めています。時間と空間を超えて続く絆を大切にしたいですね。

●「ともだち」アカベコ伝説



イラクのがんの子どもたちにお土産として持っていくのに、どうせなら福島産のものがいいと思いついたのが会津の伝統玩具アカベコ。昔、お寺を作るのに大量の材木を運搬せねばならず人々が難儀していると、どこからか牛の群れが現れ、材木の運搬を手伝ってくれました。

重労働で多くの牛が倒れる中、最後まで働いたのが赤色の牛だったといわれ、子どもが

生まれると無病息災のお守りの意味もこめて赤ベこをプレゼントすることになったそうです。イラクでがん



アカベコの絵を描いてくれた
白血病治療中のイマーンちゃん



と闘っている子どもたちに元気になってほしいという願いを込めて子どもたちに配っています。アカベコはかわいいのと、首が動くので、子どもたちも大喜び。アカベコの絵をかいてくれたのは、アルビルのナナカリ一病院に入院しているイマーンちゃんです。

●家族が離れ離れにならないように

両手を広げている少年の絵。この絵をかいてくれたのは、前出のスハッドちゃんです。イラク戦争に反対するポスターとして使用されました。戦争は多くの人たちを殺し家族をバラバラにします。バックに描かれたカラフルな家は、シリア内戦で難民としてイラクのドホークに逃れてきたサマーン君が描いてくれました。彼は小児がんの治療中です。



バックの家がカラフルなチョコカード (内側)

日本では、福島原発事故で故郷を追われ家族がバラバラになっている人たちがいます。一日も早く家族と一緒に過ごせるように願っています。

今年のチョコ募金の準備も順調に進んでおります。

チョコ募金担当 齊藤信一

8月、事務所に一本の電話が入りました。「11月23日に息子の結婚式を予定しております。参列者様にJIM-NETのチョコレートを差し上げたいので早めに頂けないでしょうか」と嬉しいお問い合わせです。事務局内で相談し「ご希望に沿えるように致します」と返事を致しました。嬉しい反面、8月の時点ではまだチョコは原材料の状態です。缶のデザインが決まり缶のプレスが始まったところです。この缶のプレスは埼玉県草加市の工場にお願いしておりますが、9月初め隣の越谷市では竜巻が発生し大きな被害を受けました。缶工場は被害を受けませんでした。危うく今年の新しいチョコ缶が竜巻に乗って大空を舞うところでした。被害を受けられた皆さま、応援してます。頑張ってください。

草加市で出来上がった缶は津軽海峡を渡り北海道に送られます。北海道でチョコが詰まり、箱に入ってまた津軽海峡を渡り、神奈川県川崎市にある障害福祉サービス事業所に届きます。チョコ募金スタッフはチョコとカードを入れる透明な袋などを業者に依頼し梱包資材の準備をしています。この袋の専門業者は「日本一

激安のOPP袋を目指し、朝から晩までOPP袋の研究をおこなっています」とHPで謳っているところです。またチョコと一緒に入っているカードは毎年事務局長が思いを込めてデザインし、荒川区日暮里にある印刷所に印刷を依頼しております。この印刷所さんもJIM-NETのポリシーに共感し協力して頂いております。

北海道でチョコができあがり、町工場で作られた缶に詰められ、障害福祉サービス事業所で一つになり、皆さまにお届けする形になります。このように沢山の方の温かいご支援で11月上旬には発送準備が出来上がります。皆さまのご支援でこのチョコ募金が成り立っているのだと毎年心から思い準備を進めております。

鶯鶯鶯鶯鶯

私はこの3月にイラク北部の小児がん病院を訪問する機会がありました。小児がんは薬で治る時代です。皆さまから頂いた募金で、1人でも多くの子どもたちを救いたいです。今年もイラクの子どもたちが描いた絵の可愛い缶でお礼致しますので、宜しく宜しくお願い致します。



絆がつながる、ぐるぐると。

海外プロジェクト担当 榎本彰子

現在JIM-NETでは、イラクの小児がん患者支援とシリアの難民支援を実施しています。イラク支援では、医薬品・医療機材支援、感染症対策支援、院内学級支援、貧困患者支援を実施しています。また、シリア難民支援として妊産婦支援や物資配布を行っています。今回は、今年のチョコ募金のテーマにもなっている「絆ぐるぐる」プロジェクトについて近況報告したいと思います。

絆ぐるぐるプロジェクトは、東日本大震災後に緊急支援として東北に寄せられ、現在は残っている衣類をシリア難民に届けるプロジェクトとして、今年2月から実施しています。石巻の漁師、木村さんが残っている衣類をシリア難民に届けられないかということで、このプロジェクトが始まりました。その後、石巻だけでなく福島に残っている衣類も発送してきました。

今夏には、福島大学の教授と学生が福島から衣類を手持ちし、ヨルダンを訪れました。ヨルダンには、震災後に義援金の支援だけでなく、福島へ医師を派遣しました。現在は、ヨルダンにたくさんのシリア難民が逃れてきており、50万人以上のシリア難民を抱えています。福島支援をしてくれたヨルダンとの絆を繋げた

いということで、ヨルダンのシリア難民やシリア難民支援をしている団体に衣類を届けました。また、福島へ派遣された医師たちにも出会うことができ、当時の話を聞いたり感謝の気持ちを伝えることができたりと、物資だけでなく人と人が繋がることができました。

イラクでは、アルビル近郊に逃れてきているシリア難民へも福島からの衣類を配布しました。その際、衣類だけでなく羊肉を配布しました。さらに、女性を対象に羊毛を使った手工芸製作のワークショップを行いました。そのうちの一人は「とにかく都市での難民生活は家賃の支払いが大変なので、仕事がほしい。」とのことでした。絆と一緒に、羊肉の食料配布から羊毛手工芸品作成に、そして現金収入に繋がるよう、羊もぐるぐると繋がる支援になればと思います。

(写真下) アルビルでの衣類配布。特に子供用の新品の下着を届けた。



(写真上)
衣類を届ける福島大学の学生。

富成地区での活動、第一歩

福島プロジェクト担当 村田信一

伊達市南郊の富成地区では、原発事故以降多くの農産物が出荷停止になり、豊かな農村風景が広がるこの地域は心なしか寂寥の募る空気が漂っている。秋になると、この地域の特産の柿が各所でオレンジ色の実をつけ始め、特産品のあんぼ柿出荷に向けて農家は忙しくなっていくのが原発事故前の光景だったが、富成では今年も出荷は出来ないという。至るところに見られる柿の木は、それに手をかける人もないままに実をつけ、放置されている実は早々と大地に落ちて朽ち始めていた。今年は、宅地や道路の除染もおおむね終わり、地域の秋祭りや各種イベントも震災以前に近い形で計画されているようだが、空間線量も決して低い値ではないこともあり、やはり長期的に見たときの子どもたちや若い人たちへの影響は心配ではある。

そのへんを踏まえながら、しかし避難した人よりも、地域に残ってここで未来を築いていこうという人たちが多くいるという現実も意識し、まずは地域の放射線量マップをつくらうと企画し、9月の一日、実際にやってみた。

地域の狭い範囲ではあったが、それでも主要道路から外れた私道や田畑のあぜ道、木の茂った神社の中など、1μSv/hを超える線量のところも多く、地域住民

の多くの感情として線量は下がってきているという思いがあることも理解しながらも、やはりこの現状を認識した上で、対策を考えていかなければならないのではないかと、という思いを新たにしました。

継続して線量測定を実施し、地域のより詳細な線量を知る足がかりとしてほしいと思うが、その一方で子供たちへの対策はよりスピード感をもってやる必要があると思うので、その辺で早急に動きたい。小学校で元気に遊び、学ぶ子供たちと接していると、彼らの将来に対する私たちの責任を感じざるを得ないのだ。



富成でも、今年の一部で米は収穫されたが、柿は出荷の見通しは立たない。地域の自然はいつもと変わらないように見えるが、各所に放射性廃棄物の仮置き場がある光景が日常になりつつある。